

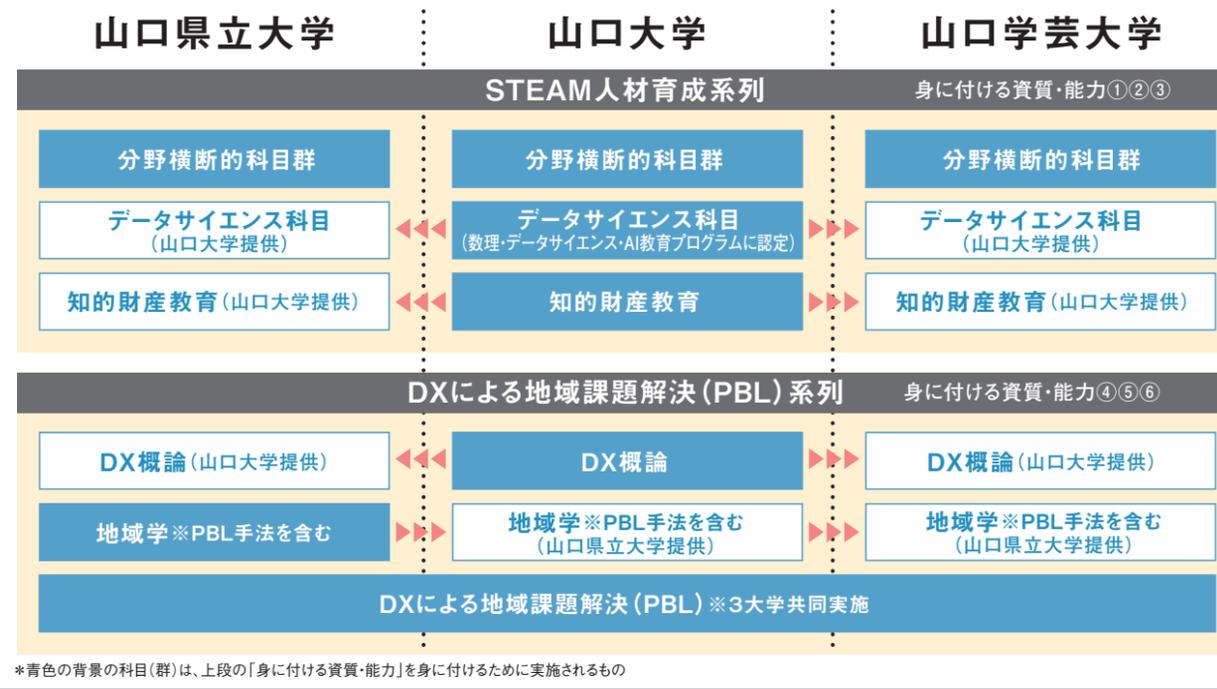


キャンパス/山口県山口市、宇部市 学生数/10,015人 創立/1815年(1949年大学設置)  
 基本理念/「発見・はぐみ・かたちにする 知の広場」の創造、共同・共有・共有精神の涵養、公正・平等・友愛の尊重  
 学部/人文、教育、経済、理、医、工、農、共同獣医、国際総合科学  
 大学院/人文科学、教育学、経済学、医学系、創成科学、東アジア、技術経営、共同獣医学、連合獣医学、連合農学  
 THE世界大学ランキング2024/1201-1500位、同日本大学ランキング2023/=59位、同インバクトランキング2023/301-400位

## SPARC教育プログラム「ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成事業」

### 身に付ける資質・能力

- ①物事を俯瞰(メタ)的に捉え思考する力
  - ・幅広い基礎教養と思考法
  - ・地域課題解決に資する基礎的専門知識(分野横断的に学習)
- ②知的財産に関する知識
- ③データサイエンスに関する知識・技能
- ④地域の特性や特色を理解し、自ら課題を抽出できる力
- ⑤課題解決においてDXを実践できる知識・態度
- ⑥課題に対して、身につけた知識や技能を活用して解決に向けた企画・立案ができ、他者と協働して解決を図ることができる力



## 注目

### 連携教育実現のための課題解決は複数の専門タスクフォースチームで推進

SPARC教育プログラムを運営するにあたり、3大学は関係者が月2回集まって議論する「連携教育プログラム委員会」を設けている。連携開設科目の授業内容や実施方法の検討、LMSの構築、アセスメントモデルの検討などの個別のテーマについては、委員会の下にタスクフォースチームを組織して担当者レベルで議論し、委員会に案を提出する。今でこそ本音で議論できる会議だが、発足当初はごちない雰囲気があった。連携開設科目とLMSのタスクフォースチームをまとめる野崎学長特命補佐は次のように話す。「3大学それぞれ考え方が違う場面も少なくなかった。遠隔授業についても本学はオンデマンドを想定していたが、教育効果を考慮してオンタイムにこだわる大学もあった。負担は増えるが、相手の要望を尊重するよう調整した。まずは信頼関係を構築し、考え方のギャップを埋めることが重要だ」。現在、2027年度までの授業設計を終え、担当教員に授業方針を共有するガイドラインを策定している。2024年度からはリカレント教育プログラムの検討チームも始動予定だ。

### 連携教育の検討体制図



## CASE STUDY

# 地域の大学とリソースを共有し、地域人材育成プログラムに挑む

## 山口大学

全国初の国公私立大学による大学等連携推進法人を設置し、文系DX人材の育成をめざす山口大学。連携科目を開設する工夫と、その先にある学環新設について聞く。



学長特命補佐(教育支援改革担当) 野崎 浩二

のぞきこうじ ●1988年山口大学大学院理学研究科修士課程修了。2001年山口大学理学部准教授、2010年同学部教授、2018年山口大学理学部長。2022年教育・学生支援機構教育支援センター長、DX人材育成推進室長、教学マネジメント室長。博士(学術)。

**3大学が強みを持ち寄り 文系DX人材を育成**

本学は2023年3月に山口県立大学、山口学芸大学と共に大学等連携推進法人を設置し、文系DX人材を育成する新たな教育プログラムを開始しました。人口減少、過疎化が急速に進む地方都市では、地域産業のDX推進と地域コミュニティの再構築が不可欠です。理系のデジタル技術者だけでは、これらを成し得ません。そこで、デジタルスキルに加え、地域課題を分析して、その解決にアプローチする力を持つ文系人材を、3大学が協力して育成していくことにしました。

文科省のSPARC事業に採択されたこの取り組みは、各大学がそれぞれの強みを持ち寄ることでより実現できるものです。本学は3大学の中で唯一、文・理両方の

**大学間、学部間で連携し 新たな学環の設置へ**

規模も教育理念も異なる3大学の連携を実現するには、さまざまな面での調整が必要でした。まず、各大学の学生の特性が違います。AIや統計学を学ぶうえで数学は必須ですが、本学以外では入試で数学が重視されないため、数学が苦手な学生が少なくありません。彼らのモチベーションを下げないように、数学の入門講義を用意しました。

加えて、授業実施の方針や成績

評価の基準なども統一し、担当教員に共有する必要があります。これらは3大学が集まる月2回の会議で丁寧な意見を擦り合わせていきました。最も大きな変更は、オンライン授業をリアルタイム配信するために、3大学でバラバラだった授業開始時間と時間割をそろえたこと。これも話し合いを重ね、合理的な時間に決めました。

同事業では、学位プログラムの再構築も求められます。本学は、地域に貢献するDX人材の育成をさらに進めるため、2025年度に「ひと・まち未来共創学環(仮称)」を新設する予定です。ここでは既存学部同士の綿密な連携の下、SPARC教育プログラムを活用した分野横断的な教育を展開する予定です。現在、地域のウェルビーイングをテーマに、心理学・社会学・データサイエンスを柱に据えてカリキュラムを編成中で、この中でも山口県立大学から3科目の授業をシェアしてもらうよう話を進めています。

地域の基幹総合大学である本学にとって、地域を支える人材育成は最大のミッションと言えます。まずは、SPARC事業で成果を上げ、地域に貢献する大学としての姿勢をより鮮明に打ち出していきます。

学部を擁する総合大学です。幅広い分野の教員が在籍しており、以前から独自のデータサイエンス教育を全学展開しているのです。SPARC教育プログラムでは数理やデータサイエンスの科目を提供します。山口県立大学は地域に根ざした教育と研究に強みがあるので、PBLへ展開する連携開設科目「地域学」を提供してもらいます。山口学芸大学は、芸術を基盤とする教育に強い教員養成大学です。STEAM教育のアウト分野でその力を発揮するでしょう。試行実施1年目を終えた今、検証と改善を重ね、2025年度から本格実施を始めます。

\*1 「地域活性化人材育成事業～SPARC～」地域社会のリソースを総結集し、個別大学の枠を超えた横断的なSTEAM教育を基盤とした教育プログラムを構築・実施し、事業の成果を基に学部等の再編を目指す取組を支援する文部科学省の事業。  
 \*2 設置構想中であり、内容に変更が生じる可能性があります。